

連載・海外便り (その2)  
東アフリカ (タンザニア) の食品・包装産業事情  
食品流通アドバイザー  
田中技術士事務所 代表 田中 好雄

タンザニアの経済はインド、パキスタンが小売ルートを握り、南ア共和国、中国による観光開発、水道、鉄道、電力、航空などへの投資・民営化が進み、EU などからの経済援助が農・水・畜産業の中核をなすという3つの特徴が見られる。

包装産業に関してはインフラ整備がなされておらず、隣国ケニア、南ア共和国、台湾、インド、EU、中東などからの包装材料・機械の輸入が大半を占める。ポリエチレン、一部複合包材、ダンボール、ガラスビン、缶、PET ボトルなどが使われている。市場ニーズに適合する分野、ビール、清涼飲料水、乾燥食品 (カシューナッツ、コーヒー、紅茶、スパイス) などからその導入がなされている。

国の包装に対する施策として、1975年にタンザニア標準局が開局され、91年に包装技術センターが開設された。包装設計、材料試験、包装の標準化と広報の仕事をしている。タンザニアが加盟する南部アフリカ開発共同体(SADC)および東アフリカ共同体(EAC)が地域経済統合に向け域内関税の撤廃を目指している。このような活動が共同体加盟国間での包装・物流の標準化を進めてゆくことになる。

開発途上国の特徴として、このような組織はあるが、制度化がなされておらず、実際の活動についてはODA(政府開発援助)を待つという状況が一般的である。

開発途上国の食品産業が包装技術と共に発展してゆく過程として、インフラ整備、原料・副原料の選択、機械・設備の管理、包装材料の選択、作業者のスキル向上、生産・品質管理の徹底、加工技術の向上、包装・物流技術の修得、市場ニーズの把握などが不可欠な要因である。タンザニアにおける主な食品産業への包装の利用例について述べてみたい。

タンザニアの主要産物である紅茶を商品化して内需拡大、輸出振興に結びつける努力がなされている。包装材料はインドと台湾から輸入しており、構成はOPP-VM/LDPEとOPP/ CPPとカートン、3ピース缶が用いられている。縦ピロー、4方シール、ガゼット包装機がインド製、ティーバック包装機はスイスとアルゼンチン製を使用している。輸出先は英国、アフガニスタン、パキスタン、エジプトなどであり国内よりも海外を主に狙っており、有機栽培のお土産用缶入紅茶、ティーバック入り紅茶、袋詰(ガゼット包装)の紅茶などがある。あるメーカーの商標・意匠をそっくり真似して、それより低価格で市場に参入する悪徳業者もあり、開発途上国特有の頭の痛い問題を抱えている。

コーヒーも紅茶と並んで主要産品であり国営企業が堅実な経営をしている。フリーズドライの製造設備をもち、包装材料は3ピース缶をケニア、PET-VM/ CPPを台湾から輸入し、LDPE、ダンボールは国産品を使用している。包装機は4方シール機(台湾製)、缶用充填機(英国製)、巻締機は(ドイツ製)である。輸出先はギリシャ、オーストラリア、ケニア、ウガン

ダ、スイス、スカンジナビア諸国、日本などである。

□



コーヒーメーカーでのコンサルティング